

令和2年7月豪雨に関するアンケート

(8月1日～8月20日実施)

回答数 104 件

○事業所での被害状況、当時の状況と対応について教えてください。

問1 事業所での被害はありましたか？

1. 被害はなかった・・・94 (90.4%)
2. 事業所の床上浸水・・・2 (1.9%)
3. 事業所の床下浸水・・・2 (1.9%)
4. その他・・・6 (5.8%)

- ・雨漏り・・・2
- ・雨漏りによる居室天井一部崩落
- ・大きな被害はありませんでしたが、午前中いっぱいくらい、1階トイレと浴槽（浴室内）の排水ができなくなりました。
- ・施設中庭、駐車場の部分的冠水
- ・地下階が機械室であり、地下水が湧き出したようで地下室の一部が3cmほど浸かりました。ここ数年の大雨時は毎回のことです。

問2 当時の状況と、とった行動や対応などについて教えてください。

1. 施設付近の川が氾濫・・・14 (13%)
2. 施設付近の道路が冠水・・・49 (47%)
3. 施設付近で土砂崩れが発生・・・0 (0%)
4. 職員が被災して出勤できない・・・23 (22%)
5. 学校や交通状況等で職員が出勤できない・・・51 (49%)
6. 利用者の送迎が困難・・・28 (27%)
7. 入居者・利用者の避難支援・・・20 (19%)
8. 地域住民との声かけなどの関わり・・・3 (3%)

その他自由記述

○スタッフ状況・調整

- ・一部職員が出勤できなかった。
- ・スタッフ3名出勤できず、近場のスタッフで対応した。
- ・職員1名の自宅アパートが床上浸水し、5日程出勤できなかった。
- ・ヘルパー自宅付近が水害冠水により車が動かせず稼働できなかった。
- ・出勤する際に冠水でスタッフが出勤できない。出勤に2時間もかかる人もいた（渋滞で）
- ・自転車通勤の職員に対して職員（出勤）が送迎した。
- ・職員の被災状況を確認し出勤判断。
- ・大雨で施設付近の川や道路の状況を連絡し早めに職員の配置指導を出した。

- ・訪問スケジュールの変更や直行直帰など勤務形態を変更する等の対応をした。
- ・大雨警報によって職員の帰宅を早めたり、自宅冠水の職員には休みを取らせるなどした。
- ・電車などで出勤できずに休んだ・子供さんの保育園、学校が休みで出勤できない→出勤したスタッフで協力して今回はなんとか業務に支障はなかった。
- ・学校も保護者迎えとなり、時間半給でスタッフは帰宅した。
- ・被災の可能性のある職員を早退させる。
- ・夜勤以外の職員は早く帰宅（上司からの指示あり）した。
- ・警戒レベル4以上が出た地域に在住する職員に家族の安否確認と必要あれば帰宅促し行った。
- ・帰宅途中のエリアの道路は冠水し始め、自宅に帰れない状況だったため、早めに仕事を切り上げ帰宅した。
- ・出勤していた職員が自宅に帰れなかった。（城島）
- ・夜間スタッフを1名増員
- ・夜勤者（夕方～）1人になるのもし何かあったときのために遅出の職員に当直として泊まってもらった。
- ・職員被災については休日にして対応（出勤可能となるまで）
- ・職員への連絡方法について整備するの必要を感じた。

○事業所運営・送迎について

- ・営業の中止
- ・2名程道路の冠水にてお迎えに行けなかった。
- ・施設周辺500mは問題なかったが、道路が冠水しており、利用者予定全ての利用者さまへの送迎が行えず、利用をその日のみお断りすることとなった。
- ・利用者宅周辺の道路が冠水、事故で通行止めとなっていた為、サービス提供日を翌日に変更した。翌日も道路渋滞の為、通常片道20分が80分程度要した。
- ・城島町の利用者家族が膝上まで冠水して2日間動けず、利用者の送迎を職員で実施した。
- ・7/6（月）大雨により冠水しそうな道路ができたため、利用者を通常より早く自宅へ送った。7/7（火）上の②③⑤⑥の状況であったため休業をした。7/8（水）前日と状況変わらなかったが、迎え可能な利用者のみ受け入れ対応。
- ・利用者の安全確保のため、時間短縮にて送迎実施。道路状況を把握し、安全優先の判断にて休館（2日間）
- ・通所系事業所も帰宅送迎を早めに行ったり、利用を中止する等の対応を行っていた。
- ・1日のみ通所リハビリテーションを中止し対応。他日は状況に応じ送迎時間の調整を行った。
- ・夕方16時までが提供時間だが、施設付近道路が冠水し始め、また、避難勧告警戒レベル4だったので判断した。（短時間）
- ・市からレベル4になった日はお休みにした。その他の日も送迎を遅らせたり、早く帰したり安全の確保をした。
- ・7月に豪雨があり、朝8時に大雨警報が出ており、法人で話し、デイは中止となる。また、豪雨により、安全面を考え、早くデイを送った日が2日程あった（法人で話し合いをしてから）
- ・事業所の臨時休業や時間短縮をした。休業は当日朝に判断し、職員、利用者全員に周知した。
- ・送迎困難地域の方はお休みをいただいたり、利用時間短縮して送った。
- ・デイサービス、ショートの利用者・家族へ状況報告と送迎を早めに行うことを伝え対応した。

- ・大雨情報、法人内での情報を把握しながら対応を行った。冠水する前に利用者さまを早めに送り出すため、朝の迎え時等ご家族へその旨お伝えしていた。7/7は利用者、職員の安全を考慮し、運営を休止した。
- ・事前に職員待機しており、人員調整は行うことができたが、交通状況（道路）の渋滞などで、デイサービス送迎や訪問時間が遅れることがあった。事前に TEL 行っている。
- ・レベル 4 等発令すると学校関係でのスタッフが出勤できずに、対応できる職員が極端に減る傾向が続いたが、ご家族との連携で、自宅待機される方も多く、最低人数でご利用者方へのサービス提供を行うことができた。子育て世代の多い事業所でもあり、思わぬ支障が出ることを改めて失念した次第。

○利用者への対応

- ・利用者さまの安否確認を行った（電話にて）
- ・利用者に電話入れ、心身状態の確認を行った。
- ・必要な方への訪問のみとし、他利用者は安否確認の電話対応をした。
- ・担当利用者、独居の利用者に連絡をし、安否確認をした。（市のハザードマップも活用）
- ・利用者と職員及びその家族の安否確認と、近隣の河川交通状況の確認を行なった。
- ・送迎ルートでの冠水（まわり道にて対応）、独居（高齢者世帯のみ）の利用者への TEL による安否確認。
- ・訪問日の変更
- ・地域によって利用者を避難場所へ送るような方もいらっしゃいました。
- ・大雨によって身動きできなくなる前に利用者さまの御自宅へ連絡し、希望する方には施設にて宿泊していただいた。
- ・独り暮らしの方の服薬の訪問が冠水していけなかった。ご自宅へ帰れない方もいたので緊急に宿泊の対応を行った。
- ・訪問経路が冠水し、利用者宅まで行くことができなかった。利用者個人宅、施設等の安否確認し、全員無事確認した。個人宅では、避難場所の確認を行い、冠水していなければ自宅にいるよう、独居宅では不安がないかなどの確認をした。
- ・避難が必要だが、避難できない利用者を緊急ショートにつなげた。
- ・城島方面の独居障がい者のショートステイを緊急で対応した。
- ・かなりの大雨の際は家族へ送迎していただいたり、通り→訪問に変更したりして対応した。
- ・施設付近の道路の冠水は想定内であり、十分に対応練れたが、利用者 1 名の送迎が困難となり、ショート利用に変更で対応するも登録利用者の住所付近の状況など、事前の確認が必要と思われる。
- ・河川氾濫時は 2F へ避難するよう指示する
- ・夕方から 1F の利用者を 2F に避難させた。
- ・1 階の小規模の利用者を 2 階のグループホームに避難していただいた。
- ・筑後川片ノ瀬・広川知徳橋の水位を見て、氾濫危険水位になった時は全ての入居者様を 2 階へ避難した。
- ・デイサービス、デイケアご利用者の方には事前に書面にて利用当日の 8 時までに警報が発令されている、されていない場合での事業所の対応を知らせていた。用心のため、ご利用されない方も多かったが、一人で不安という方もおられ、雨脚が弱まったときに二人介助にて送迎にいきました。

○その他

- ・ 気象情報の確認。
- ・ 近辺河川の状況把握など
- ・ 情報収集と、送迎についてルートが大丈夫か確認したのみ。
- ・ 食材が届かない。(ある物で料理をしました。2日目に届いたので良かった。)
- ・ 玄関が3段あるが、2段目まで浸かった。
- ・ グループホームの前の道路は朝5時から通行止めになった。
- ・ 荒木町の農道(デイサービスひまわりに行く途中)、上津あさひクリニック周辺、三潴町生岩送迎困難、安武の小島送迎困難(淡河医院周辺)
- ・ 道路冠水による道路の通行止めとそれに伴う交通渋滞が発生した。
- ・ 電気、水道、ガスは使用できたのが幸이었다。(数日後、ガスの不具合が発生)
- ・ 7/6(月)夜、法人のグループホームの避難支援を行った。
- ・ 当事業所は平屋のため、冠水や氾濫が起きてからでは間に合わないので早めの対応を行う。

問3 事前の備えとして対応していてよかったことについて教えてください。

○計画やマニュアルの活用

- ・ 独居、支援の少ない人に対して、事前に電話などで連絡を取り、対応できるか確認している。
- ・ 緊急時の連絡体制が取れていた。利用者毎の対応の方法を確認していた。
- ・ 入居者避難時、避難先の法人内の他事業所と細部まで話し合いを行い、避難の流れを各部署で共有していた。
- ・ 事前に早く送ることもありますと説明していた。川が氾濫した場合、グループホームの入居者の避難をだれが行うかまで決めていたこと。
- ・ 次の日の方の連絡リストの準備(中止になってもスムーズに対応できた)
- ・ もしものことがあった際のサービスの代替案を考えていた。
- ・ 災害時、避難する際の荷物を事前準備していたこと。
- ・ 浸水ハザードマップや道路灌水マップを事前に活用し交通困難を防いだ。
- ・ 災害時の対応はミーティングでシュミレーションしている。
- ・ 防災、水害のマニュアルを作成していたこと。それに沿った行動ができたこと。
- ・ マニュアルを作成しており、役割分担が出来ていた。
- ・ マニュアルに基づき役割分担を行ない、1階の小規模と建物全体としての体制を作っていた。
- ・ 事業継続計画やハザードマップ、河川氾濫監視カメラなどを事前に確認し、早めの対応が出来たことで、利用者さまの送迎の賛否を判断することが出来た。
- ・ 災害の場合は2階へ避難すると決めていたこと。
- ・ 水害時の避難訓練を日頃より行っている。
- ・ 水害時の避難訓練を毎年実施している。
- ・ 6月末頃グループホーム内で防災訓練を行い、大雨時の避難誘導を確認したこと。
- ・ 6月に大雨などによる防災訓練を実施していた為、状況把握や対応などが冷静に行えた。道路状況などの情報を事前に把握していた為、送迎が安全に行えた。
- ・ 防災訓練の実施、前年等の道路状況(冠水時)等を法人間、職員間で情報交換、共有していたので早い対応ができた。

- ・2年前の大雨について、被災した職員の話しや、事業所での対応を教訓に話し合ったことが今回役に立ったと思う。実際大雨警報が出た時に被災しそうな職員を待機させるなど、シフトを作るうえで準備ができた。通所系利用者も自宅に一人に出来ない方だけは施設で確保することも事前に打ち合わせができていた。
- ・大雨、台風時の非常時におけるデイサービス、デイケア利用についての対応をあらかじめ配布したことも、通所に関しては判断がしやすかったです。
- ・水没など水害のおこる箇所（場所）がここ数年の経験で把握できる部分もあるので時間変更など対応を早めに行い職員も早めに帰宅できる状況に調整。

○事業所での情報共有

- ・連絡網整備
- ・スタッフ間の情報共有
- ・職員グループラインでの情報共有
- ・LINEでの緊急連絡網を作っていたので一斉に状況を伝えることができた
- ・緊急連絡網の訓練をしていたこと。
- ・雨情報だけでなく、学校や交通状況などを職員間で共有していたこと。
- ・利用者さまの自宅周囲の危険か所、インフォーマル支援状況などと調べて職員周知を行った
- ・前日に予報を把握し、スタッフへ周知する。スタッフでライングループを作成。写真等で把握する。
- ・テレビやネットにて天気予報を確認し、雨の降り始め等の把握に努めた。また、現在の交通状況や以前大雨のために冠水した場所、通行止めになった場所など、他職員との情報共有を行った。
- ・会社間での情報等連携。
- ・最新の情報が入ってくるように法人間で連絡を取り合った。

○情報の把握

- ・河川の情報共有（水位の状態など）
- ・情報収集（道路、川の水量など）
- ・雨雲レーダーなど情報収集に努めた。
- ・気象情報の確認。
- ・警報に従い行動した。
- ・溜まりやすい地域の確認
- ・冠水が想定される道路のチェック
- ・交通の状態
- ・ウェザーニュースや久留米市HPなどの情報収集ツールの活用

○スタッフ状況・調整

- ・事前に職員の勤務を調整した
- ・遠方からの出勤者の勤務変更。
- ・スタッフの勤務時間の調整
- ・利用者に被害は無かったが事業所周辺の道路は冠水しているところが多く、一部職員が出勤できない状

況になった。

- ・夜勤者を近隣在住の者に変更していた点。それでも1名は冠水の為出勤できなかった。
- ・早めの勤務交代
- ・これまでの冠水状況を元に、職員を早めに帰宅させることができたこと。
- ・職員が災害に巻き込まれないよう、早期帰宅をさせた。
- ・出勤が危険だと思われた職員には休んでもらうようにした。
- ・道路冠水の為、出勤できなくなる事を予想して、施設に泊まった職員もいた
- ・夜間の職員を普段1人のところを2人にして対応した。
- ・翌日出勤予定者が前日に施設に泊まって翌日の勤務体制を整えたこと。
- ・交通（甘木線）ストップで出勤できない職員1名発生の為、1人スタッフが前日から泊まる。2人体制に夜勤変更する。1人は夜勤から。
- ・新型コロナの感染拡大により、在宅勤務ができる環境を整備していた為、今回の豪雨で出勤が出来ない職員は在宅勤務に切り替えて業務を行った。
- ・道路冠水の為渋滞が発生、入浴稼働するのに時間を要したり、職員が出勤できなかったりすることを想定し、1日休業とした。

○利用者・家族への対応

- ・利用者への現在状況の確認
- ・利用者の送迎時間を早めた。
- ・送りの時間を早めることで利用者さまを安全に送ることができた。
- ・事前に利用者に雨の状況によっては早く送ったり、休業するかもしれないことを伝えていたこと（家族にも）。6月に行った研修で冠水する場所や道路について事前に情報の共有ができていたこと。
- ・系列のグループホームから避難した利用者さまを受け入れる（被害はなく一晩のみ）
- ・自然災害の恐ろしさは日頃の訪問時にも伝えている。繰り返し伝えることが大切だと思っている。
- ・訪問介護のルートの調整
- ・夜の職員を2名（通常は1人）にし、1Fの利用者を早めに2Fに避難させた事。
- ・当日ではあるが、利用者の安否確認、避難場所の確認をしたのでこの件については良かった。訪問経路の冠水情報があったので便利でした。
- ・独居の方で自宅付近の道路がすぐに冠水しやすい環境だったので早めに泊まりサービスで対応。
- ・ご家族との連絡も密にとり、早めの対応を行ったことは双方ともに安全を確保できてよかった。
- ・雨雲の様子を随時チェックし、利用者の家族の連絡リストに沿って連絡し、冠水がひどくなる前に安全に自宅に送る事ができた。
- ・呼吸器の子→バッテリーの複数確保→停電した〇〇

○他機関との連携

- ・ケアマネージャー、利用者とうまく連携が取れたことで、利用者の状態やケア内容に支障なかったこと。
- ・独居で避難が難しい方は、民生委員と連携を取っていた。
- ・相談員との連携。
- ・自治会に加入している為、地域の方々から声掛け（心配の）していただいている。

○防水対策

- ・土のう袋で対策
- ・止水版の設置
- ・地下プール装置の活用
- ・土のうと排水口の掃除
- ・浸水防止のための土嚢袋、水嚢袋
- ・雨水をはくための溝掃除を事前に行っていたこと。
- ・事業所前に土のうを設置、再度の床下浸水は防止できた
- ・5か所の出入り口全てに防水シート+土のうを対策し、直接の入水は防げた。ただし、壁や下水逆流から床上浸水になったが、人の避難の時間稼ぎができた。
- ・水利組合に田んぼに水を流さないようお願いしたら側溝が溢れなかった。
- ・職員駐車場（道路に面したところ）の車移動。
- ・職員の車をなるべく高い所に駐車するようにした。
- ・大雨の時は送迎車を事業所の高い場所に停めて帰る。（安心でき帰宅できた）
- ・公用車を高台へ避難させていたこと。

○その他の対応

- ・食事の対応（時間をずらす）
- ・食事を早めに準備していた。配食業者が来られないことを想定していた。
- ・非常食の備蓄を3Fに置いていたので安心でした。（実際には使用していない）
- ・非常食、水を確保していた。
- ・水、食料品（1週間分）を準備していること。

- ・1Fの医療機器等を2Fへ移動（避難）させた
- ・重要なデータを守る為、床に置いていたパソコンを高い場所へ移動した。
- ・コピー複合機など大型で高価な備品も上へ動かし、業務継続に繋がった。
- ・小型発電機を購入設置、緊急時に備えたが、停電することもなく安心した。
- ・懐中電灯を備え付けていること。
- ・いつでも在宅ワークができるようノートパソコンとWi-Fiを準備している。

問4 今後の備えとして対応や検討が必要だと思ったことについて教えてください。 またそれに関する事業所（法人）での取り組みの方針があれば教えてください。

○送迎・サービス・避難等について

- ・利用者さんへの情報メール一括送信
- ・できるだけ早めに意思決定をし、利用者の安全を守る。
- ・想定できる範囲の利用者さまのサービス日時の振替。
- ・独居の方や動きが不十分なら、要介護者の方など優先順位をつけ早期に対応する。
- ・冠水の恐れがある地域の利用者は梅雨の時期早めのショートステイ利用の提案を行う。

- ・透析利用者の対応方法。
 - ・重症度の高い患者さんや避難をしたくないという考えの方への対応。
 - ・独居の方に関しては急な支援を受けることが難しい方がおられる。その方々をどういう風に事業所として支援できるのか、検討が必要。
 - ・今回の災害はそこまでなかったが、一人暮らしの方のお薬の対応などの災害でスタッフが行けない場合どのように対応するべきか、、、検討したい。
-
- ・利用者様宅の大雨時の状況、又ヘルパーが通る道路の状況を記録に残しておく、それによって事業所、利用者様宅への独自のハザードマップを作ることもできるので活用したい。
 - ・送迎ルート等で前回の状況を踏まえて防災マップなどの作成。
 - ・小規模多機能事業所なのでサービスを休止するわけにはいかない。その際の代替、お客様宅へ行くまでの危険予測を考えて対策しておくことが必要。
 - ・久留米市のハザードマップの見直しが必要だと感じた。ここ2,3年で冠水しやすい場所の把握。送迎ルートや迂回ルートの見直しが必要だと感じた。
-
- ・水害を想定した避難誘導を話し合った方がいいと思う。
 - ・施設外へ避難誘導するときの移動手段の検討。
 - ・避難場所の再度確認、避難方法の確認。備蓄品の確保。
 - ・災害発生時に利用者の皆様やご家族、入居先の施設がどのような対応をするのか確認しておくこと。
 - ・利用者（在宅）の避難の際、どのような手段で避難所まで連れて行くのか。また、事業に災害時必要な物をご本人なりにまとめて準備してもらおう話をしておく。ご家族とも電話でもよいので、もし災害が起こったときの話をしておくことが必要だと思う。
 - ・避難したことで入居者様が不穏になられることがあった。またコロナの時期であり密になったのが心配だった。
-
- ・利用者家族と、デイケアから送迎困難時の対応の同意書を作る。
 - ・家族と連絡が取れなかった場合の対策。
 - ・送り時に家族と連絡が取れなかったり、取れても仕事の為不在だったり（帰宅時間を合わせて送迎）時間がかかってしまった。
 - ・緊急避難に備えて、利用者さまの生活に必要なものをリストアップしたり、まとめるようにしてはどうかと考えている。
 - ・施設が地域避難所として避難を受ける際、コロナ禍の状況の中、受け入れ方法、人数、場所など検討が必要であると気づいたが、最終的に結論が出ていない。

○計画・マニュアルについて

- ・大規模災害時の対応
- ・災害時対応のため事業継続計画の作成が必要と感じた。
- ・大規模災害時のBCP策定
- ・法人内での事業所で冠水しそうなどの早期の避難、対応対策の検討、訓練の実施。
- ・今までは特別警報を基準にしていたが、新たに避難指示（警告）も判断基準に加えた。

- ・大雨、洪水の際は正しい情報収集に努め、2階に避難すること。
- ・災害マニュアルを作成しているので、職員に対して周知の徹底を行い、備えておくこと。
- ・通所リハ利用者の方について、自宅やその周辺の様子や送迎する道路(浸水)状況の把握が難しかった。警戒レベルの段階と合わせた基準を作成検討中。
- ・避難の判断を管理者だけでなく、当日勤務のスタッフでも判断できるようにする。また、解除時の判断も行えるようにする。
- ・避難勧告が出たあと、訪問に行くか止めるかの判断基準を決めていなかったため、スタッフが不安だった。

○施設整備、備品等について

- ・雨漏れ箇所の改修
- ・土嚢
- ・止水板
- ・筒川がすぐにそばにあるので、防水板設置を検討している。
- ・当事業所では土のうや出入り口に目張りができる様準備している。
- ・施設への水害対策を今後考えている。土嚢や勝手口、窓など目張りして浸水対策の物品をそろえている。
- ・災害用備品を揃える(非常用電源・ボート等)
- ・道路冠水時、避難の為のゴムボート
- ・施設周りが冠水するため、近くで冠水しない場所に職員の車を止められるようにする事が必要。

○備蓄や電気などについて

- ・物品の運送が不能となった場合の備蓄の見直しが必要と感じた。
- ・非常食の備蓄について法人で話し合っている。
- ・施設内の食料品、飲料水の備蓄もある程度は必要である。
- ・水道や電気などのライフラインが寸断されたときの対応。水や食料の備蓄量や保管場所の検討。
- ・実際に2階へ避難してこのまま何日も2階で過ごすかもしれないということになった場合、すぐに食料が足りなくなると思った。食料の備蓄をどうするか、どこに保管しておくべきかを検討する必要があると思った。
- ・ライフライン確保(法人の備えとして受水槽90トン分、空冷式発電機330kw2基、100kw1基)。母体病院の利用者を考えると他に保存食ないし水は足りない。※透析水用に高架水槽12トン
- ・たんがくの家での入居者は医療依存度の高い利用者さまが殆どの為、インフラに関しては特に留意している、特に停電は死活問題である。小さなこと～大きなことまで検討することはたくさんあり、今後も必要な事から一つ一つ取り組んでいきたい。
- ・当地は避難よりこの地に留まるほうが今の所安全であると判断している。備蓄には力を入れて、万が一に備えている。
- ・当施設は周辺より高台に位置しており、施設の2階に避難するのが適切。その中でしっかりと避難し、衛生面を確保し、新型コロナウイルスへの対策ができる為に、備蓄品等の確保を更に進めていくことが必要と考えた。

○災害情報について

- ・冠水しやすい地域を頭に入れておくこと。
- ・浸水、冠水の情報を共有できるアプリを使用する。
- ・冠水地区等の送迎に直接関係する情報が欲しい。
- ・冠水被害を受けやすい送迎ルートの迂回方法や天気予報の確認等。
- ・訪問経路の冠水状況をチェックしていこうと思う。高速道路が使用できなくなり、一般道路が渋滞した。道路情報はいち早く知らないといけないと感じた。

○スタッフについて

- ・夜間対応をどうするか考えておくべき。
- ・夜間避難する場合の人員の確保（対応する職員はいるが少ない）
- ・たまたま泊りの職員を1人増員したが、常に災害時には2人の職員を泊りにする必要があると思った。
- ・早めに退勤する事（夜遅くまで帰れなくなるので）
- ・職員が出勤できないときの対応等を決めておく必要がある。
- ・帰宅困難となったスタッフの対応
- ・各職員が住んでいる地域や地区の災害状況の把握。
- ・職員が居住する地域、通勤路に関する具体的なハザードマップの活用
- ・今回、今までに冠水したことがない場所が浸水したことで、事業所に来ることができない職員がいた。逆にどうにかして出勤した職員もおり、基本的には、無理をしないことを伝え、全員が車出勤なので、冠水したところを通る時の注意点について話しをする必要があると思った。
- ・スタッフの出勤状況で無理に出勤させず、安全が第一。
- ・大雨警報発令時には職員スタッフの出勤を安全の確保ができてからの出勤対応とすること。
- ・水害については避難場所や法人内での人員等調整で対応している。

○連携について

- ・法人事業所間の連携を図り、入居施設の入所者の安全確保を実施した。地域との協力体制。
- ・法人の中では高い場所にあるため、他の事業所の支援をしている。
- ・もしも、利用者宅への訪問が連続してできない場合の他事業所との連携、ネットワークづくり。
- ・急遽、避難のために直接本人・家族希望でショート利用された方がいた。今後、一人暮らしや自宅付近に水害の恐れの為避難希望がありそうな方へ担当ケアマネより連絡確認していただき、早めの受け入れ体制を整えていく必要がある。ケアマネとの連携を密にしていく。
- ・近くの施設などと利用中止にするのかを相談。
- ・安全な場所にあるので、地域の方が避難して来ることも想定した訓練を行っている。

○道路整備について

- ・田主丸周辺で冠水する地域が多かったので道路整備されると助かる。
- ・施設前の道路が冠水するが、今年中には工事して頂けるとの事。

○これまで行ってきた各部会や全体での防災研修について

問5 これまで実施してきた防災研修は、事業所における防災体制の充実・強化に有効でしたか？

(災害発生時を想定した計画策定や備えなど) また、実際にそれが活かされましたか？

- ・事前にハザードマップ等の確認はしたが、防災研修が活かされたとは感じていない。各自、自身を守る行動をと指示した。
- ・防災の研修で生かされたものはなく、Yahooの雨雲レーダーを見ながら早めの対応ができた。
- ・今回自施設において特に被害がなかったためそれを感じることはなかった。
- ・実際に災害が発生していないので、本当に発生した時、落ち着いて出来るか不安はある。
- ・施設の立地条件や予想される災害はそれぞれ違うので防災研修は参考程度で当てはまるのが少ないように思える。
- ・研修を受けても実際に行っていなかったため、改めて事前対策の必要性を感じた。

- ・意識するために有効でした。
- ・心構えができて良かった。
- ・有効だったと思う。道路の冠水が多い地区なので心構えと対策が事前にできた。
- ・少しは有効であったと思う。実際に事が起こるともっと必要な点が見えてきた。
- ・事前の心構えとしては参考になることが多いと思う。避難の判断をどの時点で考えるかという面では生かされたと考える。このところ、災害も頻繁であるため、現実的に意識は高まっていると感じる。
- ・被害の現状や警告の意味を知ることができた。
- ・度々起こる水害として認識を改める必要を感じた。河川の場所、浸水しやすい場所、浸水しやすい地域、研修会で学んでいたが、実践できるように訓練していきたい。

- ・道路が冠水する場所を把握していたので、回り道で対応できた。
- ・研修で所在地の浸水想定水位などを確認出来ていたため、避難開始の判断に迷わず対応ができた。
- ・ハザードマップの活用や事前に冠水する地域の把握ができていたため、冷静に対応できた。
- ・久留米市の非常災害対策等についてや、ハザードマップ等もとても参考になっており、それなりに対応ができた。
- ・ハザードマップを参考に職員へ注意喚起ができた。また、予測される災害による業務継続計画の作成と研鑽、体制作りと教訓が大事であると感じている。
- ・前月に水害の研修をしていたため、職員も無理することなく、判断行動ができたと思う。

- ・緊急メール配信で職員がリアルタイムで情報共有できたこと。
- ・事前に情報(雨・浸水など)が入ってくるので、助かります。Yahooの防災速報を入れておくと有効。
- ・電話や状況の確認や連絡網など役に立った。

- ・避難訓練確保計画書(洪水編)を昨年作成しなければならなかったため、それが役に立った。
- ・研修での資料等にて防災計画を作成しているので大変有効だった。
- ・研修内容に災害時の防災計画についての話があり、水害時の防災体制の参考にさせていただいた。
- ・災害マニュアルに沿って、対応でき、現場での混乱が無かったことがすごく有効だった。
- ・研修で勉強したことを参考にマニュアルを作らせていただきました。

- ・有効であったが、その都度見直しの必要性を感じる。
 - ・有効だと感じた。業務継続ガイドラインの見直しが必要だと感じた。
 - ・台風・地震・洪水に関するマニュアルは様々ありますが、これほどの大雨や、また新型コロナウイルスに対する処置も考えなければならず、現状にあまりそぐわない所もあるように考える。事業継続計画を新しく策定していた為、そこは役に立ったように感じる。
 - ・専門家の方より研修を受けさせていただくことは有効で自施設ではどう考えるか計画や備えの変更や付け加えに役立つ。
 - ・災害発生時を想定した計画策定が防災体制の充実、強化が必要であると痛感した。
 - ・それぞれの研修会で学んだことはとても有効である。研修後、災害委員と内容の打ち合わせや体制づくり。修正をその都度行っているので今回も急速な対応ができた。
 - ・避難先を計画していたが、そこに行くまでの道路状況等を考えると、施設内安全場所への避難の方が良いと思った。
-
- ・防水板は実際に過去被害をうけたある病棟の事務長さんに連絡を取り、防水板を見せていただいた。
 - ・これから研修会や事業所としての取り組みを充実していきたい。今回での安否確認、交通経路の確認の他に、レベル4に避難指示になったときの対応策を事業所内で話し合いたい。また、防災セットを新たに作りたい。
 - ・年2回の防災研修は必須だと思うが、日々の職員の意識付け及びいつ何が起こるかも分からない社会の中で対応が最善に出来る様備えていく必要がある。
 - ・場所は高台にあり水害は想定していませんが、地震等予想の出来ない災害の対策を、細かくマニュアル化する必要がある。

今後研修会で実施して欲しいテーマがありましたら教えてください。

○災害対策

- ・梅雨、水災害、台風、大雪など季節に合わせての対応研修会を実施して欲しい。
- ・防水についての研修をお願いしたい。
- ・久留米市の災害マップについて危険地域をより詳細に詳しく知りたい。
- ・今後も久留米市独自の防災に対する研修、対策について実施して欲しい。
- ・警戒レベルに応じた準備と非難行動
- ・避難をしたくない人、しなくて大丈夫と思っている方への対応方法。
- ・まさしく防災研修。水害や豪雨に対する備え、利用者をどのように避難させたら良いのか、具体的に実践して欲しい。
- ・災害時が起きた時のQ&A（たとえば自宅が浸水しているので親類宅への送迎はどうかなどのQ&A）
- ・法人内以外へ避難しなければいけない時、認知症の方の受入先などの問い合わせ・連絡方法など教えてほしい。
- ・災害対策として、非常時に施設から出ることを想定するよりもいかに施設に誘導するかということ考えたものがあってもいいと思う。
- ・非常災害時の備蓄品について（他の事業所は、何をどれくらい備蓄されているのかを知りたいです）
- ・災害時、対応する職員の落ち着かせ方、いかにパニックにならず対応できるかを教えて欲しい。
- ・災害が予想される前日に事業所へメールなどで情報をいただけると助かる。

- ・各事業所の判断になると思うが、久留米市として通所リハビリ利用者ほどの程度の警報が発令した場合に、避難誘導を行う等の基準を決めてもらえると利用者へ説明しやすくなる。
- ・通所の送迎時の注意点やこういう状況の時は送迎に行かないという内容の研修があったらいいと思う。
- ・防災商品の提案もあれば参考に出来ると思うし、実際に取り入れられる部分もあると思うので、今後研修があれば取り入れた用品やその効果についてもお話があれば助かる。また、補助金等あればより助かる。
- ・実際に被災された事業所の体験談を伺いたい。
- ・他施設での災害対策についてお聞きしたい。
- ・実際の実例などあれば教えてほしい。共有して欲しい。
- ・水害や感染を実際受けた方の対応方法など
- ・近年では災害というと地震、水害、台風といろいろな自然災害と向き合っていかなければならない。また、コロナウイルス等、感染症対策にも力を入れていかなければならないと思う。
- ・感染防止対策
- ・新型コロナ感染事例の発生した施設におけるその後の対応報告など
- ・情報伝達訓練、円滑な Web 会議
- ・虐待防止

その他自由記述

- ・市等の河川事業のあり方について考えていただきたいと思う。
- ・用水路からあふれて道路冠水が毎年ある。用水路から最終的には川にスムーズに流れるように拡張や下水整備の充実が必要なのかなと素人ながらに思った。

○避難・避難所について

- ・コロナ状況での公民館などの利用が難しいように感じる。
- ・公民館に避難した方が介護が必要だったためスタッフ？にみきらんと言われたそう。
- ・一部避難所が、避難者が多く、かなりの密状態になっており、避難することが不安と思われる利用者・家族がおられ、避難場所を増やす等行政は検討も必要ではないかと思えます。また指定の避難場所の前の道路が冠水して行けないということもあり、早めの避難の重要性を周知する必要がある。
- ・当施設が水害時の地域避難場所になっているので、今回の水害で地域の方からの相談があった。運推でも要望があり、地域の方が何名程避難できるのか、具体的な事も計画する。コロナウイルスの面も考慮し検討していく。
- ・事業所が高い場所にあるため、周囲の被害状況によっては地域の方に避難場所として活用していただいてもよいと考える。

○関係機関・地域との連携について

- ・50年に一度という異常気象が毎年発生している。今後もいつどこで発生してもおかしくない状況の中で、施設近隣の方々とのサポート体制の強化・構築できたらと思う。
- ・今回のように急激に被災となることが多いので早めの対応が困難。ショート利用も現実的ではない。やはり私たちも被災者なので高齢者は個別に近隣で支援する方法を確立させてほしい。
- ・ハザード区域でない南校区は連携（新型コロナで連携している為連携可能と思われる）しているが、水害となると浸水する地域の訪問看護ステーションとも連携しておいた方が、訪問看護サービスが継続できるのではないかな。

○施設での対応について

- ・今回、施設そのものは被害はありませんでしたが、職員の出退勤についての心配があった。出勤できない職員も出たが、協力しながら対応できた。
- ・実際に道路冠水などで事業所へスタッフが来ることができない状況を考えた場合、在所のスタッフが危機意識を持って冷静に対応ができるスキルを高めていくことが重要だと感じている。
- ・グループホームは2階のため、そのまま待機するようにしていたが、1階の小規模利用者を2階に避難していただき、協力しながら対応できた。
- ・他の施設で実際のところ非常食何日分用意できているか知りたい。
- ・これから毎年ゲリラ豪雨はあると考えている。法人内でもそのつもりで事前に社用車の移動や土のうの準備、側溝の掃除などを行っている。
- ・今回は土のう袋は上下水道局の方に10袋支援していただいたり（南薫校区の回覧板より情報収集できた）、水をあげるポンプをホームセンターで購入したり、事前の備えは出来ていた。今後は防水板などの検討もしているが、やはり費用の面が出てくるので、色々と助成もあれば助かるので、検討課題に挙げていただくと幸いである。
- ・施設が被害を受け、ライフラインの遮断から最初に困るものは電気。利用者が不穏になり、暗闇の中混乱させると思う。非常照明も15分～30分しかもたず、災害が大きければなおさら暗闇も長くなる。施設の非常時用発電機はスプリンクラーとエレベーターしかバックアップできず、数時間しか持たない。最低限、照明だけは確保できるよう、小型発電機（30A）を用意し、最小の電力でバックアップができる非常用回路と照明のLED化を考えていきたいと思っている。

以上